■　今しばらくは米朝間の緊張の行方を見定めたい…

前回、ドル/円の月足チャート上に描画した一目均衡表の月足「雲」上限に注目と述べた。月足であるから最も肝心なのは月末（4/28）時点の水準であり、現在はあくまで途中経過であるが、月足「雲」上限が 109.00 円に位置しているのに対して、今週 17 日は一時 108.13 円までドル/円が下押す場面もあった。

執筆時は 109 円を挟んで往ったり来たりの展開となっており、まさに“瀬戸際”といった状況が続いている。周知のとおり、来週 25 日は北朝鮮軍創設 85 周年の記念日であり、そのタイミングで北朝鮮がいかなる軍事的行動、挑発的行動に出るかが、目下の市場の最大の関心事となっている。今のところ米朝首脳はともに一歩も引かない構えを見せており、まさにチキンレースと化した状況にはアクシデンタルなリスクが大いに伴う。

当然、市場におけるリスク警戒姿勢も普段以上に高まっており、どうしたってドルの上値は限られやすい。逆に言えば、来週 25 日のイベントを比較的無難に通過すれば（米政権が一旦手を引くなど、幾つかのシナリオが考えられるものの、いずれもそう容易いものではない）、ドルが一旦買い直される可能性もあろう。もっとも、5 月 9 日には韓国大統領選が控えており、場合によっては同日あたりまでリスクオフのムードが引きずられる可能性もある。

言うまでもなく非常事態であるだけに、不要不急のポジションはできるだけ持たないようにすることが望ましいが、テクニカルに相場の節目となり得るところは一応押さえておくことも重要であろう。その意味で、やはりドル/円の月足「雲」上限を 4 月の終値で下抜けるかどうかという点は引き続き注視しておきたい。

また、ドル/円については週足チャート上に一目均衡表や 31 週線、62 週線などを描画し、其々との位置関係をチェックしておくことも肝要と思われる。まず、先週の週足は 31 週線を下抜けて、目下は 62 週線（現在は 108.86 円）が下値を支えるかどうかの瀬戸際にある。仮に 62 週線が下値をサポートしたとしても、やはり次に 31 週線や週足「雲」上限を再び上抜ける動きとならなければ、足下の弱気ムードは払しょくしきれない。

さらに、週足の「遅行線」が昨年 12 月に見られたのと同様に 26 週前の週足ロウソクが位置するところを下抜けることとなるのかどうかという点もウォッチングしておきたい。

一方、ユーロ/ドルは足下でドル安の傾向が強まるなか、4/10 安値＝1.0569 ドルを目先のボトムに下げ渋る展開となっている。以降、暫くは一目均衡表の日足「雲」上限や 89 日線と絡み合う展開を続けたが、今週 18 日に英国のメイ首相が突如「下院を解散して 6 月 8 日に総選挙を実施する」との緊急声明を発表したことで一気に値を戻す展開となり、一時は 1.0730 ドル台までの戻りを見ることとなった。

これは英ポンドの急上昇に伴うドル全面安の流れによって、結果的にユーロ/ドルが押し上げられた格好であり、もはや戻りは一巡したとの感もある。直近高値の 1.0737 ドルは 3/27 高値から 4/10 安値までの下げに対する半値（50%）戻しの水準でもあり、とりあえずは当面の上値が限られやすくなっていると見られる。また、ユーロ/ドルの直近高値は 31 週線に上値を押さえられたような格好にもなっており、今週以降も 31 週線がレジスタンスとして機能し続けるのかどうかに注目しておきたい。

今のところ、ユーロ/ドルの行方は米朝間の緊張がなおも続くのかどうかにかかっていると言え、場合によっては 4/10 安値からの目先的なリバウンドが終了し、再び元の下げ基調に戻る可能性も大いにあると見られる。その場合は、再び日足「雲」上限から下限の水準を試す動きとなり、仮に日足「雲」を下抜ければ、あらためて 1.0500 ドル処の節目を試す可能性が高まると思われる。繰り返すも、今しばらくは不要不急のポジションを持たないに限るが、いずれ朝鮮半島情勢が徐々に落ち着くとするならば、その後の展開も一応は想像しておきたいところだ。

（04 月 20 日　12：35）